

沖縄平和啓発プロモーション事業 デジタルアーカイブ

事業HP

もっと事業の内容を詳しくご覧になりたい方は
ホームページをご確認ください。

沖縄平和啓発プロモーション
(御万人びーすふるアクション)



<https://umanchu-heiwa.com>

開催したシンポジウム



シンポジウムをアーカイブで振り返ることができます。
是非ご覧ください。

▶アーカイブ映像

右記のQRコードより
ご視聴いただけます。

※ 2026年3月末まで
視聴可能



沖縄のこころ おわりに

令和6年度沖縄平和啓発プロモーション事業では、これまでに蓄積された沖縄戦体験談や資料を活用して、沖縄戦の実相や歴史的教訓を正しく次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く伝えるため、県内外で児童生徒等を対象としたワークショップや東京都でのシンポジウム、平和教育指導者養成講座などを実施しました。

今後とも、平和を希求する「沖縄のこころ」が県内外、さらに世界中に伝わり、恒久平和の実現に寄与することを目指してまいりますので、引き続き、沖縄県の平和行政の取組に対するご理解とご協力をよろしくお願いします。

沖縄県知事公室平和・地域外交推進課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟1階(東側)

電話番号:098-894-2226 FAX番号:098-869-7018



令和6年度 沖縄平和啓発プロモーション事業

うむい

ダイジェスト

つたえる・つなげる・のこす

今、世界は「平和」だと思いますか？

※沖縄県内外の受講生に聞きました

今、世界は平和ではないと思っている若者が約**70%**いる

[平和を学び・想像し・考える]

沖縄県内や県外での出前授業やイベントの開催等において、様々な方々とのパートナーシップにより、「対話」をとおして共に考え、作っていくことを大切にしました。

「平和の大切さ」を写真や歌から学び、朗読や追体験から感じ、想像しながら「あなたが思う平和」「私たちにできること」を一緒に考えた取組でした。

僕が望むのは「島唄」を歌わなくてよい日が来ることです。沖縄に本当の平和が訪れ、誰もが安心して暮らせるようになったとき、「島唄」は役目を終えます。その日が一日でも早く来ることを願っています。
宮沢和史氏

これからも沖縄が世界平和のために発信し続けるリーダー的存在でいてください。私にできることも考え続けます。

平和啓発シンポジウム
参加者

[本事業を通しての声]

学校現場だけでなく、地域や社会全体で平和教育に取り組むことの大切さを実感しました。学びを深め、次世代へ伝える責任を改めて感じました。

平和教育指導者養成講座
参加者

自分1人で世界を変えることは無理かもしれないけどこの話をいろんな人に話して広め、みんなで世界を変えることはできる。
だから、いろんな人に話を伝えます。

赤目中学校 1年生

出前授業参加者

2,393人

1,470人

923人

沖縄県内

- ・泊高等学校
- ・松川小学校
- ・具志川中学校
- ・黒島小中学校
- ・登野城小学校
- ・北中学校
- ・恩納小学校
- ・那覇高校
- ・北中城高校
- ・真和志高校

沖縄県外

- ー三重県ー
- ・赤目中学校
- ・名張中学校
- ー兵庫県ー
- ・神戸弘陵学園高等学校
- ー滋賀県ー
- ・武佐小学校
- ・老蘇小学校

県内では、難民問題から沖縄戦中・戦後を学ぶ参加型学習を実施しました。県外では、導入でまず沖縄を知ってもらうためにクイズを実施し、その後に沖縄戦の実相、慰霊の日の取組、沖縄の歴史をテーマに、授業を実施しました。また、今年度は平和学習実施のサポートも行いました。

イベント参加者

1,278人

おきなわ国際協力・交流
フェスティバル展示・読み聞かせ

約 900人

中部農林高校×ハワイ沖縄県系人
平和オンライン交流会

59人

「沖縄のこころ」
平和啓発シンポジウム
会場参加＋オンライン参加

319人

沖縄からの平和発信を全国に届けることを目的に、シンポジウム、ワークショップ、音楽を取り入れた講演など、様々な形式でイベントを開催しました。

平和教育指導者養成講座参加者

151人

- ・首里・那覇フォールドワーク (34人)
- ・読谷フィールドワーク (37人)
- ・平和朗読講習会 (21人)
- ・戦後移民から学ぶバスツアー (23人)
- ・平和学習プログラムづくり (36人)

次世代の平和教育者養成を目的に、県内の教育機関の教員（小、中、高、大学、社会教育）などを対象とした平和教育の講座を実施し、教材作成や日ごろの実践共有を行いました。

メディア取材回数

19回

- ・新聞17回
(沖縄タイムス、琉球新報、伊和新聞、毎日新聞、朝日新聞、宮古毎日新聞等)
- ・テレビ2回 (NHK)

協力学校・団体・個人

44団体・個人

学校

沖縄県内10校、県外5校

教育機関、行政、NPOなど

独立行政法人国際協力機構（JICA）／
認定NPO法人開発教育協会／養秀同窓会／
対馬丸記念館／読谷村教育委員会／楚辺自治会／読谷文化センター／ユンタンザミュージアム／ひめゆり平和祈念資料館／東京大学 阿古智子先生／琉球放送／台湾七脚川の皆様／名桜大学 小川寿美子先生／関東学院大学 藤浪海先生／聖心女子大学 澤野由紀子先生／ハワイ大学 石田正人先生／石垣市教育委員会／宮古島市教育委員会／沖縄県立平和祈念資料館／NPO法人ジャパンハート／鹿児島県宇検村／認定NPO法人 ヒューマンライツ・ナウ／東京都中野区新風エイサー／三重県名張市教育委員会／沖縄ポリピア協会／豊見城中学校 大城真紀子先生／豊崎中学校 内山直美先生／沖縄県立中部農林高校／ハワイ沖縄連合会

ボランティア参加・協力者

69人

様々なイベントにおきまして
多くの方々に協力頂きました。

- ・東京都中野区新風エイサー
- ・大学生(東京大学、名桜大学、関東学院大学、聖心女子大学、沖縄大学、テンブル大学、琉球大学)
- ・読谷村職員
- ・沖縄ポリピア協会
- ・ラジオ出演者
- ・メディア関係者など

多くの支えがあってこそ

本事業内でご登壇して下さった方々、イベント参加者、ワークショップの運営補助等、数えきれない程のご協力がありました。本事業は、県内外の様々な組織とのパートナーシップを重視しており、沖縄県の平和啓発事業に賛同いただいた皆さまの思い、支えがあったからこそ、平和のうむい（思い）を皆様の心に届けることができました。

平和の「うむい」メッセージ数

739件

平和への「うむい」メッセージを
集めた場所

- ・RBCiラジオ 特別企画
「まるごと1日平和 ～戦後80年に向けて考えようスペシャル～」
(2024年11月19日)
- ・おきなわ国際協力・交流
フェスティバル 2024
(2024年11月24日)

「うむい（思い）」の可視化

一人では、社会を変えることなんて難しいと考えてしまうかもしれません。しかし、沖縄から平和へのうむい（思い）を届けることで多くの方々の共感生まれ、事業参加者の心の変化を見てとることができました。

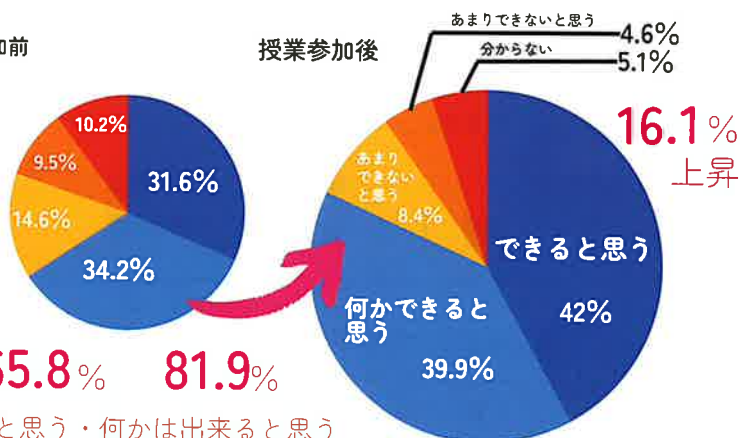
授業に参加した生徒のうむい（思い）の変化

Q.あなたは世界を変えることができますか？

Q.授業後、平和への理解が深まりましたか？

授業参加前

授業参加後



できると思う・何かは出来ると思う

出前授業において、沖縄戦の継承や歴史を振り返るだけでなく、さまざまな人々の生き方に触れることで、参加者自身が「私には何ができるだろう？」と考え、小さなことから何かやってみようという気持ちの変化を大事に展開してきました。授業のプログラムは、話を聞いて理解するだけでなく、シミュレーション体験を通して戦争経験者の立場になって考えることによって、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶ流れとなりました。授業前後の受講者の意識の変化が大きく、学びを通じての理解度が高まっているのは、主体的に学んだ結果だと思われます。

県外イベント

全国に伝える意義がある
沖縄の経験を、県内外へ
発信。

教育現場

県内外の教育現場に
平和啓発の授業を届け、
意識の変化を調査する。

つたえる、つなげる、
のこす、沖縄のこころ
～本事業で大事にしてきたこと～

次世代の育成

平和教育に携わる多くの関係者がつながり、ネットワークを形成しながら沖縄戦の次世代継承を行う。

平和で公正な社会

沖縄からの発信を通じて、
平和な社会の実現を目指す。

教材の整理・作成

戦争経験者が年々減少していく課題や世界で起きている紛争、様々な社会問題の中から、何をもって平和の学びとするか整理し、教材作成を継続的に行う。